

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名 岡山大学

学部・研究科等名 農学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目：I 教育の実施体制

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名：教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制

以下の2つの取組において顕著な変化を認めた。

取組と成果1 保護者向けアンケート調査および保護者との意見交換会の実施

平成20、21年度に学生と保護者の要望を汲み取り、学生教育内容、教育方法の改善と学生支援の質の向上を図るため、農学部フェア・収穫祭の一環として「保護者との意見交換会」および「保護者向けアンケート調査」を実施した。

保護者との意見交換会では学部の教育・研究内容、就職状況の説明、クラス担任との個別相談を行い、相互理解を深めた。

保護者向けアンケートからも、このような交流の場を設けて欲しいという意見が80%以上を占め、保護者の方々から好評を得ている。教職員も保護者の要望を直接聞くことができ、教育および学生支援の改善に役立った。(資料1)

資料1：保護者向けアンケート調査結果概要（平成21年度）

1. 対象者 学生(140名)の家族
2. 回答者 70名(回答率50%)
3. 質問事項及び回答結果
 - 1) 大学(農学部)の話をお子様としたり、お子様から話を聞いたりすることがありますか。
 - ①よくある 10名(14.3%) ②時々ある 47名(67.1%) ③ない 13名(18.6%)
 - 2) お子様のことで、大学(農学部)と連絡を取ったり、相談したことがありますか。
 - ①2回以上ある 1名(1.4%) ②1回ある 2名(2.9%) ③ない 66名(95.7%)
 - 3) 相談したことがある方は、大学(農学部)の対応に満足しましたか。
 - ①とても満足した 0名 ②満足した 4名(100%) ③不満 0名
 - 4) 保護者の皆様と農学部の教員や職員などが意見交換する場があったほうがよいと思いますか。
 - ①是非設けて欲しい 9名(13.2%) ②設けて欲しい 45名(66.2%) ③必要ない 14名(20.6%)
 - 5) 農学部主催の保護者会など、農学部に進学する学生の保護者が集まる機会があれば参加したいですか。
 - ①是非参加したい 8名(11.6%) ②できれば参加したい 47名(68.1%) ③参加しない 14名(20.3%)
 - 6) 岡山大学農学部フェア/収穫祭をご存じですか。
 - ①よく知っている 2名(2.9%) ②知っている 31名(44.3%) ③知らない 37名(52.9%)

(出典：農学部資料)

取組と成果2 農学部教員が執筆した教科書作成、使用の開始

本教科書「産業生物科学」は学生が授業を理解するため、総合的な学習目標を明確に知ることができる。また学生が卒業時に備えておくべき基本的知識を学生に明示した。平成21年度から専門基礎科目の教科書として指定した。(資料2)

資料2：教科書「産業生物科学」について



本教科書は、本学農学部担当教員の大多数(54名)が参画し、「産業生物科学」という広大な分野を体系的にまとめあげた(314ページ)ものである。自然に基礎から応用まで学習でき、演習問題で理解度が検証できる工夫がされている。

なお、本書は、岡山大学出版会を通じて出版された。

(出典：農学部資料)

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育／研究)

法人名 岡山大学

学部・研究科等名 農学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目：Ⅱ 教育内容

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

○顕著な変化のあった観点名：学生や社会からの要請への対応

「地域活性化システム論」の開講

本学部では、我が国の重要な課題である地域活性化に対して、平成 20、21 年度に内閣官房からの要請に基づき、政府各省・自治体・NPO 法人等と連携し「地域活性化システム論」を開講した。これは産官学民の交流を活性化させ、学生のキャリアアップ養成を目的としており、地域活性化に対して農学の立場からアプローチする全国的にも特色のある取組である。

また平成 19 年度から中国四国農政局との包括協定による講義「日本農業論」を開講し、充実した施策説明を行っている。さらに、農林水産省大臣官房による食料・農業・農村白書および森林・林業白書の講演会を開催し、農政の理解を向上させる要請に対応している。

この「地域活性化システム論」の開講により、施策から実際まで有機的につながった教育内容となり、学生からは実際に地域活性化に従事したいとの意見が出るなど、学生の地域社会に対する関心と理解が著しく向上した。(資料 1)

資料 1：「地域活性化システム論」の概要

授業科目名

○「地域活性化システム論 農学と地域活性化Ⅰ（農と福祉）」

概要：地域活性化の取組の状況を把握し、農学の立場からのアプローチについて広くディスカッションする。特に農と福祉を取り上げ、どのような地域活性化が試みられているか、さらにどのようにすればよりよい展開が可能かを産官学民の立場から意見交換を行う。本学農学部附属山陽圏フィールド科学センターの都市型大学農場としての環境を利用した新たな取り組みを紹介し、今後の展開を考える。大学教員に限らず、政府各省庁職員・自治体職員・NPO 代表等の幅広い分野からの講師による講義を行う。

○「地域活性化システム論 農学と地域活性化Ⅱ（バイオマス）」

概要：地域活性化に向けた様々な取組に関して、現状と課題を学習する。その課題に対して、農学からのアプローチの可能性に関して広くディスカッションする。地方自治体で実施されているバイオマス資源の利活用による地域活性化事業を対象とする。また、本学農学部教員が実施している研究紹介を行う。その後、産官学民の立場から意見交換を行い、地域活性化に向けた今後の展開方向を考える。大学教員に加え、政府各省庁職員・自治体職員・NPO 代表等の幅広い分野からの講師による講義を行う。

※ポスターは、農学部公開シンポジウムとして開講したもの。

The poster is titled '21年度地域活性化システム論' (21st Year Regional Activation System Theory). It features a large date '10月31日▶12月19日' (October 31st to December 19th) and a subtitle '(土曜日12時から) 全5回' (Saturdays from 12:00, 5 sessions). The target audience is '対象者 一般市民・自治体職員・岡山大学 学生 等' (Target audience: General citizens, local government staff, Okayama University students, etc.). The poster lists the course schedule, including '第1回 10月31日(土)' (1st session, Oct 31st), '第2回 11月14日(土)' (2nd session, Nov 14th), '第3回 11月28日(土)' (3rd session, Nov 28th), '第4回 12月12日(土)' (4th session, Dec 12th), and '第5回 12月19日(土)' (5th session, Dec 19th). It also mentions '岡山大学附属 山陽圏フィールド科学センター' (Okayama University Affiliated San'yoku Field Science Center) and '農学と地域活性化' (Agriculture and Regional Activation). The poster includes contact information for the course: '岡山大学農学部 農学学生課 TEL: 086-251-8286'.

(出典：農学部資料)